

## 東海村吹奏楽団

# 第19回「春の演奏会」

村内を中心に活動する「東海村吹奏楽団」の自主公演です。春のひとときに吹奏楽の演奏をお楽しみください。未就学児も入場できますので、ぜひご家族皆様までご来場ください。

期日▼3月8日(日)

時間▼午後2時開演(午後1時15分開場)

場所▼東海文化センター

定員▼800席(車いす席2席を含む)

内容▼▽指揮…原進さん(東海村吹奏楽団常任指揮者)

▽曲目…「素晴らしき3つの冒険」(P.スパーク作曲)、「千と千尋の神隠し」Highlights(鈴木英史編曲)ほか



その他▼東海文化センター駐車場整備工事に伴い、駐車場の一部が利用できませんので、可能な限り乗り合わせ等のご協力をお願いします。

問い合わせ▼東海文化センター(☎282-8511)※詳細は、東海村吹奏楽団ホームページをご覧ください。



▲HPはこちら

ふるさと歴史

〜歴史を再発見〜

## 貝塚からみた縄文時代の真崎浦

東海村文化財保護審議会委員

宮田 裕紀枝

真崎浦については、これまでも多くの方々が取り上げていますが、私は、縄文時代の貝塚から出土する貝種から見える真崎浦周辺の古環境を考えてみたいと思います。

真崎浦周辺には、堀米・平原・御所内貝塚など約10か所の貝塚が点在しています。今から5000〜6000年前の縄文時代中期から後期の貝塚です。ちなみに貝塚は縄文人が作ったごみ捨て場です。そこからは土器や石器、食べ残した獣骨や貝殻などが出土しますので、当時の生活の様子が見て取れる宝の山です。さらに出土する貝種を調べると古環境を推定することもできます。

真崎浦周辺の貝塚は、ヤマトシジミを主体としています。ヤマトシジミは淡水と海水が混じりあう汽水域に生息する貝なので、真崎浦あるいは新川が海とつながっていたことが分かります。不思議なことに、海が近いにもかかわらず、ハマグリやサザエなどの海産性の貝の出土は少ないのです。



【新川でのシジミ採り(昭和32(1957)年8月撮影)】

浦周辺には、三時期の波蝕崖が確認できます。今から7000〜8000年前の縄文時代早期は年平均気温が2度くらい暖かく、海が入り込んでいました。その時に波に削られた波蝕崖が形成されました。つまり計算上、最も標高が高い波蝕崖(12〜14メートル)が早期に形成されたものと考えられます。真崎浦周辺の貝塚ができた中、後期の頃は、やや海が後退していく時期となり、二時期目(9〜11メートル)に相当すると考えます。ですから海面より低い真崎浦は新川沿いに海水の流入があったものの、砂丘でふさがれ、入り海ではなくなっていた可能性があります。そして水面まで斜面となっており、干潟はほとんど形成されなかったと推察できます。最も低い三時期目(4〜8メートル)となるのは、おそらく古墳時代以降であるかと考えています。

今後、真崎浦のボーリング調査などが進めば、縄文時代から古墳時代の古環境はより一層見えてくると思います。

